

愛知県在宅医療推進協議会（書面開催） 委員意見及び対応

○ 愛知県地域保健医療計画における「在宅医療対策」の中間見直し案について

番号	ページ	該当部分	意見	対応
1	193ページ	用語の解説 ○プライマリ・ケア 家庭や地域社会の状況を考慮し、個々の患者に起こるほとんどの健康問題に責任を持って対処する医師が	本文中プライマリ・ケアについて「医師・歯科医師」の記載があるため、引用による記載でなければ「歯科医師」を加えては如何か？	御意見を踏まえ、「医師（歯科医師）」と記載します。
2	194ページ 195ページ	2 在宅医療の提供体制の整備 現状 ○医療技術の進歩や発症早期からのリハビリテーションにより、病院を早期に退院できる患者が増えています。 ○退院支援から生活の場における支援、急変時の対応、看取りまで、切れ目なく継続して適切な医療が行われるよう、それぞれの場面において、入院医療機関及び在宅医療機関、訪問看護ステーション等の連携が進んでいます。 ○また、NICU等への長期入院の後、たん吸引や経管栄養などの医療的ケアを自宅で受けながら日常生活を営む小児等の患者も増加しています。 県では、こうした小児在宅医療に対応できる医師等を増加させるための取組を県医師会等と連携し実施しています。	2 在宅医療の提供体制の整備 課題 ○退院時支援を強化させるためには →高齢者だけではなく小児分野においても強化を進めていただければと思います。 ○入院医療と在宅医療が協働できるような地域の実情を踏まえた →人手が不足がちな在宅医療側が連携がスムーズなるような支援も求められると思います。	本県では、小児在宅医療に対応できる人材の育成及び関連する多職種による連携体制の構築を図るため、研修を実施しているところです。御意見を踏まえ、引き続き（小児）在宅医療における人材育成、連携体制の構築に取り組んでまいります。
3	195ページ	2 在宅医療の提供体制の整備 現状 ○患者が住み慣れた自宅で最期を迎えるための、在宅看取りを実施している医療機関は、平成29(2017)年10月時点において266か所となっています。	在宅看取りは有料老人ホーム等の施設もありえるので、「患者が住み慣れた自宅で」については、「患者が住み慣れた地域で」が好ましい。	御意見のとおり修正します。
4	196ページ	今後の方策 ○小児在宅医療に従事する医師等を増加させるための取組を医師会等関係団体と連携し進めていきます。	既に歯科医師会の障がい者ネットワーク推進事業の中で小児在宅に対する取り組みを始めることとしていますが「医師等」に含まれるものとして、敢えて記載しないという判断で良いでしょうか？	医師等の「等」には、歯科医師、薬剤師、看護師等の関係多職種を含みます。
5	199ページ	表8-2-5 在宅療養支援歯科診療所の設置状況	設置数だけでは医療圏毎の充実度を比較できませんので <在宅療養支援歯科診療所/医療圏内歯科診療所数×100=医療圏別普及率(%)> 等の割合を示されるのは如何でしょうか？	各医療圏内に高度な在宅歯科医療を提供できる歯科診療所の箇所数をお示ししたいことから設置数としております。
6	199ページ	表8-2-6 訪問看護ステーションの設置状況	東三河北部の訪問看護STは2件のみですが、人口は少ないが訪問範囲が広いので1訪問看護ステーションの負担は大きいと思います。また高齢化が進んでいるので今後の在宅医療が心配と思います。	東三河北部の訪問看護STは2件のみですが、その他に3件みなし指定を受けた訪問看護事業所が訪問看護サービスを行っており、令和元年度の目標の年間延べ10,020回に対して、実績は9,715回となっているため、概ね需要に応じた供給がされていると考えております。
7	200ページ	表8-2-7 在宅医療基盤の本県と全国の比較	全国に比べると訪問看護の従業員数に大きな差はないと思いますが、営利法人（株式会社）が大きく伸びており、民間の訪問看護ステーションは今後も増え続けるので、「病院・クリニック」からの訪問看護ステーションの数は徐々に減少傾向です。大規模の訪問看護ステーションは増えにくいのではと危惧しております。	令和元年度の目標の年間延べ2,592,285回に対して、実績は2,875,032回となっているため、概ね需要に応じた供給がされていると考えております。

○ 令和2年度在宅医療年間スケジュールについて

番号	意見	対応
1	<p>小児在宅に対する歯科医師会事業の担当課が健康対策課で医師会は医務課が担当となっています。今後もこの体制で進むのであれば担当課同士が連携を取っていただけるようお願いします。</p>	<p>小児在宅医療については、事業内容によって複数の課が関連するため、引き続き関係課としっかり連携を図りながら取組を進めてまいります。</p>
2	<p>在宅医療ケア児に関しては本人のみでなく家族に対する研修（指導、相談体制）や精神的なフォローが必要だと考えます。 また、（医療従事者に対する研修は）職種の枠を広げて対応されることを希望します。</p>	<p>小児在宅医療連携体制の推進を図るため、医師、歯科医師、訪問看護師等多職種の連携強化に資する研修を実施するとともに、医療的ケア児の保護者も参加し、保護者同士のネットワークが構築されるよう交流の場を兼ねた研修を実施しております。御意見を踏まえ、引き続き多職種連携に向けた取組を進めてまいります。</p>
3	<p>コロナ禍の中でWeb利用等の具体的な提案をお願いします。</p>	<p>コロナ禍においてWebを利用し、医療介護連携に関わる団体・行政の関係者が一堂に会した会議・研修等を実施し、多職種連携の促進を検討してまいります。</p>